

(一般質問)

質問日	令和8年3月9日(月)			質問方式	分割方式		
質問順位	3	会派名	自由民主党浜松	議席番号	3	氏名	鈴木 裕之
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 「元気なまち・浜松」の実現に向けた公共施設複合化について (1) 公共施設複合化「地域中核施設」の狙いについて (2) 「地域中核施設」の今後の展望について	<p>本市は、学校と協働センター、図書館、福祉施設などを一体整備する「地域中核施設」として公共施設を複合化していく方針を示している。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 複合化は維持管理コストの低減が見込めるほか、市有財産の有効活用や新設の抑制等、メリットも期待できる。「地域中核施設」の方針決定に至る経緯や考え方と、期待する効果について伺う。</p> <p>(2) 「地域中核施設」として、まずは佐鳴台地区で複合化を計画している。公共施設複合化の今後の計画として、どのような観点で検討し、どれくらいの規模、スピード感で次の地区を選定していくのか。地域中核施設の今後の展望について伺う。</p>						中野市長 鈴木財務部長
2 学校環境について (1) 延期された学校施設の改修について (2) 学校配膳室の空調整備について (3) 授業におけるAIの活用について (4) 部活動の地域展開について	<p>小中学校は子どもたちの未来を養う重要な拠点であると考え、学校を取り巻く環境は変化しつつある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 今年度予定をしていた学校施設の大規模改修等が、国の予算が確保出来なかったことで改修ができなくなった。小中学校施設整備計画に与える影響及び今回改修ができなかった学校施設の改修時期について伺う。</p> <p>(2) 国は学校給食衛生管理基準を定め、学校配膳室における温湿度を定めている。本市は、当基準を満たしていない学校が101校あり、386配膳室あると決算審査特別委員会で答弁があった。各校の学校配膳室における、今後の空調整備の展望について伺う。</p> <p>(3) 国はデジタル教科書の導入を検討する等、教育現場を取り巻く環境は大きく変化している。本市では、英語授業にAIを取り入れる実証を2校で行っているが、その成果と今後の展望について伺う。</p> <p>(4) 本市は、令和7年10月に「浜松市「休日の部活動の地域展開」に関するガイドライン(案)」を公表し、市民説明会や生徒・保護者への意見聴取、国のガイドライン改定等を踏まえ、3月中にガイドライン完成版の策定・公表に向けて調整している。国のガイドラインでは、平日の部活動の地域展開についても取組方針が示されているが、平日の部活動の移行時期をどのように検討しているのか、本市の考えを伺う。</p>						吉積学校教育部長 " 野秋教育長 "

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>3 ウェルネス推進事業本部における取組について</p> <p>(1) 浜松ウェルネスプロジェクトの成果について</p> <p>(2) ウェルネスに関する新たなニーズへの対応について</p>	<p>ウェルネス推進事業本部では、市民の疾病・介護予防や健康づくり、地域企業の健康経営の推進、また、「予防・健幸都市」を実現するために官民連携による「浜松ウェルネスプロジェクト」を実施しているが、ウェルネス推進事業本部は令和5年4月1日～令和10年3月31日までの時限組織であり、すでに折り返し地点を迎えたことになる。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 浜松ウェルネスプロジェクトの3本柱に掲げる「市民の健康増進、健康寿命の延伸」、「地域企業の健康経営の促進」、「ヘルスケア産業の創出」は、人口減少が課題となる中、地域の持続発展に欠かせない。庁内連携を図るとともに、官民連携プラットフォームを基に推進してきたプロジェクトの各取組における、これまでの成果について伺う。</p> <p>(2) ウェルネス推進事業本部が設置された令和5年以降、社会状況は大きく変化し、市民の価値観やニーズは多様化している。今後のプロジェクトやウェルネスに関する施策の検討状況と展望を伺う。</p>	<p>松下ウェルネス推進事業本部長</p>
<p>4 魅力的なまちづくりについて</p> <p>(1) 公共交通の未来について</p> <p>(2) 地域バスの整備支援について</p> <p>(3) 遠州鉄道の鉄道駅のバリアフリー化について</p>	<p>浜松で住み続けたい、または住んでみたいと思っただけのような魅力的なまちづくりを推進・実現することが重要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市を含む静岡県西部地域の7市町において第5回パーソントリップ調査が行われ、本年1月に結果が公表された。今回の調査結果における本市の評価及び今後の活用について伺う。</p> <p>(2) 本市の公共交通の課題や脆弱性については市民の多くが認識している。免許返納後等において、福祉の観点からも地域の支え合いによる移動支援の取組、いわゆる「助け合い交通」が重要と考える。設立プロセスの支援や補助金の創設等、地域住民が主体となった公共交通についてサポートする施策を構ずるべきと考えるが、本市の考えを伺う。</p> <p>(3) 国は令和7年9月に公共交通機関のバリアフリー整備ガイドラインを示した。新たなガイドラインでは、すべての旅客施設を対象としており、利用者数が少ない旅客施設においても、本整備ガイドラインを目安とした整備を行うことが望ましいとされている。障がいの有無等に関わらず、誰もが利用しやすい鉄道駅にするため、遠州鉄道の鉄道駅のバリアフリー化について一層推進すべきと考えるが、本市の考えを伺う。</p>	<p>濱田都市整備部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(4) 公園整備の展望について	(4) 本市の都市計画公園整備プログラムは都市計画決定している公園を対象としているため、市全体を俯瞰すると公園整備計画が本市の南側に偏っている。一方で、市街化調整区域においても人口が増えている地域がある中で、公園がない地域も散見される。公園の数ありきではなく、各地域の人口等、時代に見合った柔軟な公園整備に見直す必要があると考えるが、本市の考えを伺う。	中村花みどり 担当部長
<p>5 安全・安心なまちづくりについて</p> <p>(1) 猪川エリアにおける雨水対策の進捗について</p> <p>(2) 浜松環状線及び遠州鉄道踏切部立体交差整備の進捗と今後について</p> <p>(3) 積志初生線の拡幅整備について</p>	<p>南海トラフ地震や近年頻発する豪雨災害に備えるためにインフラ整備等、災害に強いまちづくりを一層押し進める必要がある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 浜松市総合雨水対策計画の重点対策エリアに位置付けられている猪川エリアにおいて、令和7年11月議会の井田議員の質問に対し、雨水貯留施設を検討するという答弁があったが、その後の進捗について伺う。また、猪川流域においては、排水路の内水被害に対しても対応を検討すべきと考えるが、本市の考えを伺う。</p> <p>(2) 浜松環状線及び浜松環状線と遠州鉄道踏切部立体交差整備の、現在の進捗と今後について伺う。</p> <p>(3) 市道積志初生線は、国道152号から半田町交差点までの区間において通行空間を確保すべく整備を進めているが、現在の進捗と今後について伺う。</p>	平井土木部長
<p>6 国際戦略について</p> <p>(1) 覚書等に基づく今後の国際施策について</p> <p>(2) 海外ビジネス戦略担当課長の配置について</p> <p>(3) 外国人介護人材の戦略的な受入について</p>	<p>本市の産業基盤を維持・発展させていくためには外国人材の確保や企業の海外展開支援を一層押し進める必要がある。そのためには、海外諸都市との交流や戦略的な連携を着実かつ効果的に進めていくことが重要である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 覚書を締結している海外の国や地域、特にインドネシア、フィリピン、台湾の自治体との今後の具体的な施策について、本市の展望を伺う。</p> <p>(2) 来年度から海外ビジネス戦略担当課長を配置するが、具体として期待する役割について伺う。</p> <p>(3) 市内の医療介護現場においても人材不足は深刻さを極めている。介護分野における人材不足を補うためにも外国人材の確保は避けては通れない。外国人介護人材の確保に向けた本市の展望を伺う。</p>	<p>工藤企画調整 部長</p> <p>北嶋産業部長</p> <p>小松健康福祉 部長</p>